



演台に立つ鈴木副会長

第38回サロン開く 退会の鈴木副会長が講演

広島県コンクリート診断士会

は17日、第38回となる定期例サロンを広島市中区で

広島県コンクリート診断士会(米倉典州夫会長)は、今月4日から本紙で連載中の「診断士が語る戦争を経験した橋」執筆者である鈴木智郎副会長(復建調査設計)が講師を務めた。

サロンは、会員の技術向上や親睦を目的に2カ月に一度開催されている勉強会。特に、この日は同会設立時からのメンバーで、会の活動に中心的な役割を担ってきた鈴木副会長が転勤で会を去ることを受けてのもので、過去最多クラスとなる約50人が参加した。

講演で鈴木氏は、「原爆を経験した橋」「復興寄り合いで、国内外の主要橋を題

いた。この日のテーマは、今月4日から本紙で連載中の「診断士が語る戦争を経験した橋」執筆者である鈴木智郎副会長(復建調査設計)が講師を務めた。

見解を披露。

終了後は、会の発展に多大な貢献をしたとして鈴木副会長に表彰状が授与されたほか、送別会も催され、鈴木副会長は、最後となつた講演について「戦争という視点を通して橋の価値を考えることで、これまで以上に建設技術者・診断士の役割が浮かび上がると思つた」と強調。「会員の

見解を披露。

材に、建設当時の社会情勢や材料、構造、維持管理状況などについて、自らの経験と調査に基づく

見解を披露。

材に、建設当時の社会情

勢や材料、構造、維持管

理状況などについて、自

らの経験と調査に基づく

見解を披露。

材に、建設当時の社会情





ホーエンツォレルン橋
の爆破



ケルン大聖堂とホーエンツォレルン橋

破して連合軍をくい止め
られるよう準備をしてい
ました。そして、その時
がきて撤退とともに橋の
爆破が始まったのです。

値千金の鉄橋

レマゲン鉄橋

ドイツ将校は直後の軍法
会議で銃殺刑となりまし
たが、そのうち1名はア
メリカ軍の捕虜だったた
め処刑を免れました。橋

は確保された10日後、補
強作業中に崩落してしま
いましたが、すでに多く
の兵士は渡河しており、
平行して浮橋を建設して
いたため大勢に影響はな
かつたとされています。

帝ヴィルヘルム2世によ
つてケルン大聖堂の真向
かいの位置に建設されま
した。第二次世界大戦中
は、ドイツ軍の輸送路と
して重要な役割を果たし
ていました。一方、ドイツ
軍からするとライ
ン川はドイツ領土を守る
天然の防衛線であり、最
後はここに架かる橋を爆
破していました。しかし1945
年、それまで守ってきた
ドイツ軍自らの手で爆破
されました。連合軍がラ
イン川を渡り、ドイツ本
国側へ進攻することを防
ぐためで、多くの貢献を
してきましたこの橋を破壊
によって他の重要なもの
を守る判断をしました。
まさしく、戦争に翻弄さ
れた橋といえるのではな
ども、確保されました。そのた
だ

たライン川を渡れる唯一
の橋でした。そのためド
イツ軍と連合軍の間で激
しい争奪戦が行われ、結
果としてドイツ軍の指揮
の手による「処刑」から
救うため、いかなる負傷
者が不十分となり連合軍に
者もすべて連れて行くと
果たして大統領となる布
石が打たれたものと思い

いでしょう。

レマゲン鉄橋

爆破されたネレトヴァ橋

診断士が語る 橋を経験した橋

⑥退路を断つ橋、くい止める橋

奇策・背水の陣
連合軍総司令官のアイゼンハワーは「橋の重さ分の金と同じ価値がある」と言つたとされます。

第二次世界大戦中の1943年、ドイツ軍はユーロピアン民族軍とともにバルカン半島での支配力を強めるために、連合国側の支援を受けたユーロピアン民族軍は、解放軍は、ネレトヴァ川に架かる橋を爆破してしまいました。

この史実は映画「ネレトヴァの戦い」で描かれています。しかし、橋の対岸にはユーゴ民族軍がおり、ドイツ軍もやがて追いつて撃滅される状況。それは映画のロケで爆破されんな中、彼はなんと自分たちの橋が現在もそのまま残されています。



ノルマンディー上陸後
の連合軍は、ヨーロッパ
をドイツ本国に向けて進
軍します。戦線を後退す
るドイツ軍の背後にはラ
イン川があり、連合軍は
まず、退路を断つために
ライン川に架かる橋を爆
破します。しかし、ドイ
ツ軍でほとんどが失敗して
います。一方、ドイツ
軍からするとライ
ン川はドイツ領土を守る
天然の防衛線であり、最
後はここに架かる橋を爆
破していました。しかし1945
年、それまで守ってきた
ドイツ軍自らの手で爆破
されました。連合軍がラ
イン川を渡り、ドイツ本
国側へ進攻することを防
ぐためで、多くの貢献を
してきましたこの橋を破壊
によって他の重要なもの
を守る判断をしました。
まさしく、戦争に翻弄さ
れた橋といえるのではな
ども、確保されました。そのた
だ

ホーエンツォレルン橋
の爆破

ドイツ軍からするとライ
ン川はドイツ領土を守る
天然の防衛線であり、最
後はここに架かる橋を爆
破していました。しかし1945
年、それまで守ってきた
ドイツ軍自らの手で爆破
されました。連合軍の空爆の標的にな
っていましたが落橋しません
でした。しかし1945年、それまで守ってきた
ドイツ軍自らの手で爆破
されました。連合軍がライ
ン川を渡り、ドイツ本
国側へ進攻することを防
ぐためで、多くの貢献を
してきましたこの橋を破壊
によって他の重要なもの
を守る判断をしました。
まさしく、戦争に翻弄さ
れた橋といえるのではな
ども、確保されました。そのた
だ

ホーエンツォレルン橋
の爆破

ホーエンツォレルン橋
の爆破

の連合軍は、ヨーロッパ
をドイツ本国に向けて進
軍します。戦線を後退す
るドイツ軍の背後にはラ
イン川があり、連合軍は
まず、退路を断つために
ライン川に架かる橋を爆
破します。しかし、ドイ
ツ軍でほとんどが失敗して
います。一方、ドイツ
軍からするとライ
ン川はドイツ領土を守る
天然の防衛線であり、最
後はここに架かる橋を爆
破していました。しかし1945
年、それまで守ってきた
ドイツ軍自らの手で爆破
されました。連合軍がライ
ン川を渡り、ドイツ本
国側へ進攻することを防
ぐためで、多くの貢献を
してきましたこの橋を破壊
によって他の重要なもの
を守る判断をしました。
まさしく、戦争に翻弄さ
れた橋といえるのではな
ども、確保されました。そのた
だ

ホーエンツォレルン橋
の爆破

ホーエンツォレルン橋
の爆破



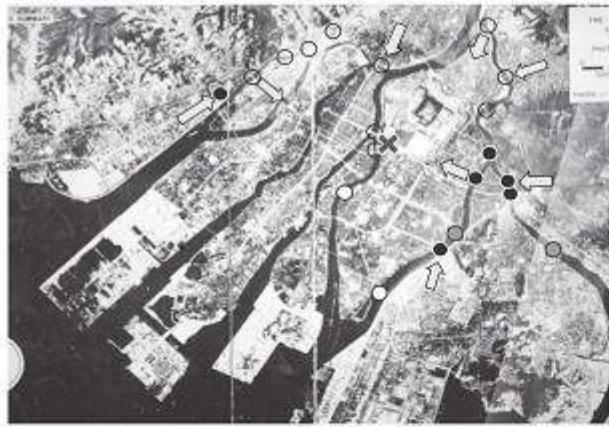


2019年6月18日 中建日報



2019年7月10日 中建日報





復興支援と被爆橋梁

被爆橋梁と復興への道
のり

被爆直後、一命をとりとめた多くの方たちが懸命に救いの手を求めて市外へ脱出して行きまし。その状況は容易に言表せない凄惨なもので、あつたことは、これまで多くの人に語られてきました。その際、橋の果たした。そこで改めて被爆約2カ月後に残された広島の道路橋21橋の配管を見てみます。図中塗りつぶし●位置が被爆橋梁であります。矢印は全国から寄せられたと思われる復興支援の流れを示しました。

した。した役割は大きく、生き延びるための橋であったはずです。そしてその後の機能は大きく転換し、復興への橋となりました。ここで改めて被爆約2カ月後に残された広島の道路橋21橋の配管を見てみます。図中塗りつぶし●位置が被爆橋梁であります。矢印は全国から寄せられたと思われる復興支援の流れを示しました。

あつたものだと思います。それにも、被爆橋梁がそこに残ったことで、が復興に寄与したかがわかるのではないかでしょうか。



終わりにあたって

診断士が語る戦争を経験した橋

⑫避難のための橋、復興への橋

橋は昔より地域と地域をつなぎ、交流を促す重要な物資を、ある時は新しい情報をもたらしてきました。そのため、洪水や老朽化で壊されないように、その時の

最高の技術を集めて建設され管理されることが常でした。それだけにどうまらず、天災や事故で失われないよう、万代橋、常盤橋、永代橋、長生橋などその命名にも多くの人の希望が込められてきました。

しかし、ひとたび戦争となると橋は重要な戦略上の橋頭堡となり、そこでの攻防が戦況を決める点にもなることから、和の意義を再確認している必要があります。また一方で市

撮影のもの以外、主にフレリ百科事典「Wikipeadia」による「鈴木智郎(すずきともお)」

これまで12回にわたりて戦争を経験した橋について記してきましたが、復建調査設計㈱東京支社技師長。1975年に京都大学大学院を修了、日本鋼管㈱を経て、平成2001年から復建調査設計㈱、資格はコンクリート診断士、土木構造診断士、技術士など多数。広島県コンクリート

戦争を経験した橋 発表橋梁一覧 (掲載順)					
番号	橋名	架橋都市	架橋年	構造	著者
1	猪俣橋	広島市	1926	コンクリート橋	被爆橋梁、土木遺産
2	京橋	広島市	1927	鉄橋	被爆橋梁、土木遺産
3	榮橋	広島市	1930	コンクリート橋	被爆橋梁
4	荒神橋	広島市	1939	コンクリート橋	被爆橋梁
5	比治山橋	広島市	1939	コンクリート橋	被爆橋梁
6	豊光橋	広島市	1937	コンクリート橋	被爆橋梁
7	九十九橋	広島市	1950	鉄橋	リサイクル橋
8	本川橋	広島市	1957	鉄橋	1943年再建、リサイクル橋
9	庄溝橋	中国・北京市	1952	石橋	虚構橋事件
10	クウェー川鉄橋	タイ・カンチャナブリ	1942	鉄橋	映画: 破曉に架ける橋
11	ホエール	フランス・ノルマンディー	1943	鉄橋(浮橋)	マルベリー人工港
12	ペイリー橋	—	—	鉄橋	軍艦: ドルドー・ペイリー砲船
13	ホーリンツオレンジ橋	ドイツ・ケルン	1911	鉄橋	1929年再建
14	レマゲン鉄橋	ドイツ・シマーヴィン	1916	鉄橋	再建されず
15	キレトヴァ橋	ボスニア・ヘルツェゴビナ	不明	鉄橋	映画: オルトワの駆け出しあの
16	ロシュピック橋	ドイツ・ドレスデン	1853	鉄橋	青い奇跡
17	漢江人道橋	韓国・ソウル	1926	鉄橋	1957年再建
18	トランティエン橋	ベトナム・フエ	1859	鉄橋	1966年再建
19	ロンビエン橋	ベトナム・ハノイ	1863	鉄橋	リベットで補修
20	グリニッケ橋	ドイツ・ベルリン	1807	鉄橋	映画: Bridge of Spies
21	スクリ橋	ボスニア・ヘルツェゴビナ・モスクワ	1966	石橋	2005年世界遺産
22	若生橋	広島市	1940	鉄橋	1962年架替

注記：掲載写真は筆者
歳。東京都出身。
1950年生まれの68

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8

8



広島県コンクリート診断士会
会長(十河茂幸)

講演する竹田教授

39回定例会開く

広工大・竹田教授らが講演 広島県コンクリート診断士会

は22日、第39回となる定期例会を広島市中区で開いた。同会の顧問を務める広島工業大学・竹田宣典教授が「鉄筋防食によるコンクリート構造物の長寿命化」をテーマに講演したほか、贊助会員による企業紹介もあった。

定例会は、設立時から2ヶ月に一度定期開催しているサロンを名称変更したもの。CPDなど実務的な内容が多いため、今年6月の新体制移行を会員約30人が参加した。会の冒頭、十河会長(近



定例会のもよう

第41回定例会開く

島県コンクリート診断士会
広島市中区で開かれる

れ、約40人の会員が出席。2018年に改訂されたコンクリート標準示方書(維持管理編)、さらに鋼構造物の補修等の際に問題となっているPCB、鉛対策についての講義を熱心に聽講した。

定例会は、設立時から隔月で定期開催してきた定例サロンを名称変更したもの。CPDなど実務的な内容が多いことを踏まえ、今期からの新体制移行を機に改めた。

2部構成の前半となつた「コンクリート標準示方書維持管理編について」では、維持管理編部会の主査として18年の改訂を手掛けた広島大学大学院工学研究科の河合研至教授が講師を務め、過去の編成や18年改訂の基本方針、変更点のまとめ

やポイントなどについて
丁寧に解説。
また、後半の「鋼構造物におけるP.C.B.、鉛アモルファスについて」では、同問題に豊富な対応実績を持つ大塚刷毛製造営業本部の石川雅也副部長を招き、過去に塗装され有害物が含有された橋梁等塗装膜への対応が遅れている現状を説いたほか、中毒事案や火災事故などの発生事例、関連法令・通達などを紹介。問題の根底には施工者だけでなく発注者やコンサルタントの理解不足が要因にあるとし、適切な対応を呼びかけた。

2020年2月18日 中建日報

第42回定例会開く 呉鎮守府地下壕の特別講演など 広島県コンクリート診断士会

広島県コンクリート診断士会(十河茂幸会長)の第42回定例会が12日、広島市中区で開かれた。この日は広島工業大学建築デザイン学科で講師を務める光井周平氏が特別講演「旧呉鎮守府地下壕について」を披露したほか、賛助会員のアオイ化学会工業とボゾリスソリューションズによる企業紹介などが行われた。

定例会は、設立時から隔月で定期開催している



定例会のもよう

つたきつかれや、准教授を務めた眞高専時代に学生らとともに実施した調査結果を紹介したほか、分厚いコンクリートに覆われ、広大な空間を有する地下作戦室内部など地下壕のようすなどを写真で解説。 同会はコンクリートの専門家団体であることから、内部の状況等に関する専門的な知見がほしいとも話し、4月の見学会への積極的な参加を呼びかけた。

また、賛助会員による企業紹介では、アオイ化成工業の講師が一昨年80周年を迎えた同社の業務内容や土木・補修工事等に活用できる多彩な製品群を紹介。ボリソフソリューションズは、水と混ぜるだけで使用でき、付着性がよくロスが少ないボリマーセメント系モルタル材「マスター・エマコ S990」を中心とした同社の製品についてプレゼンテーションした。

点検・診断の諸課題を情報共有

コンクリート
診断士5団体

中国地整と初の意見交換

中国地方整備局と中国
5県のコンクリート診断
士会による初めての意見
交換会が18日、広島市中
区の合同庁舎内で開かれ、

各診断士会の活動内容や
老朽化対策に関する中国
地整の取り組みなどにつ
いて情報共有したほか、
点検・診断に関する諸課

題について議論。また、今
後も年1回を目安に意見
交換会を定期開催してい
くことで双方が一致した。

会は、両者が情報共有を

図ることで維持補修事業
の円滑な推進、診断士の
地位向上につなげようと、
診断士会側からの申し出
によって実現したもの。

中国地整からは藤原浩
幸道路保全企画官や飯分
優特定道路工事対策官ら
道路部の幹部職員、5県
の診断士会からは、広島
県コンクリート診断士会

十河会長



藤原企画官



の十河茂幸会長（近未来コンクリート研究会）に加え、岡山県の澤嗣郎会長（エイト日本技術開発）、山口県の瀬原洋一会長（常盤地下工業）、島根県の井田豊会長（太陽建設コンサルタント）、鳥取県の奥村智洋会長（アサヒコンサルタント）ら各会の会長・副会長クラスが出席した。

冒頭、双方のあいさつでは十河会長が「診断士は、点検・診断・補修など幅広い業務を一貫して学んでいる貴重かつ難しい資格。ぜひ有効活用していただきたいという思いがある」と強調。藤原企画官も「技術者の能力向上は重要だし、診断士

もそのための資格だと思っている。これから色々と協力しながら進めるための良い機会になれば」と応じた。

会の前半では、5県の診断士会がそれぞれ開催している定期的な勉強会や現場見学会、行政・団体等への技術支援などの事業を紹介したのち、地

整側は老朽化対策に関する予算措置や各種補助制度、技術向上に向けた取り組みなどを説明。

後半の意見交換では、診断士会側が今回のように意見交換会の定期開催を求めたことについて、

が主催する講演会への講師派遣について、「要望をいただければ出先事務所と相談して対応する」と了承。

また、市町など小規模な自治体で特に深刻となつてている点検・診断の技術者不足などの課題に対しても危機感を共有し、診断士会としても行政が主催する勉強会への講師派遣や情報提供などの支援を惜しまない考え方を示した。終了後、十河会長は「色々と役に立つ話が聞けて良かった。われわれも次回までに課題を蓄積し、年に1回程度の定期開催を通じて情報共有を図つていければ」と話しつづいた。